愛知県高齢者生活協同組合　２０２０年

たより

３　月

第２１８号

＜発行＞愛知県高齢者生活協同組合・本部事務局
〒４６０－００２１　名古屋市中区平和２－２－３６
電　話　０５２－３３１－４８５３　　ＦＡＸ　０５２－３３１－２７３５
ホームページ　https://aichikoreikyo.web.fc2.com/

●もくじ●

春日井市新施設建設に向け「組合債」にご協力を・・・・・・・・・・・・・1
小規模多機能型居宅介護ってなんだろう？・・・・・・・・・・・・・・2～3
2020年度組合債募集します・・・4
2019年度協同労働リーダー基礎研修を終えて・・・・・・・・・・・・・・5
あるおじいの沖縄戦⑥〈最終回〉・8

春日井市　新施設建設に向け「組合債」購入にご協力を!!

三年越しの目標が、今春いよいよ本格的に動き始めます。

二〇二一年四月、春日井市牛山町に、地域密着型サービス事業として開設する小規模多機能型居宅介護「高齢者生協みんなの家ぬくもり（仮称）」の建設に向けて、基本設計がまとまりました。

小規模多機能型居宅介護とは、介護が必要となっても、施設に入所ではなく、自分のもう一つの家のように、住み慣れた自宅から通いながら、自分らしい生活を続けたいというニーズに応えるために、通い、訪問、泊りのサービスを組み合わせて一体的に利用できるサービスです。

高齢者生協の春日井事業所「ぬくもり」では、地域の皆さんにいっそう安心して過ごしてもらえる場所を提供したいと、かねてより切望していました。

スタッフと共に話し合いを重ね、今あるヘルパー、デイ、ケアマネの単体のサービスも引き続き利用でき、新たに小規模多機能型居宅介護を行っていくことで、多様なニーズに応えられる複合型施設にしていくこととなりました。

（次ページにつづく）

高齢者生協在宅支援センター「ぬくもり」のケアマネージャーがお答えします。

居宅介護サービスってなんだろう？

Q 「小規模多機能型居宅介護サービス」ってそもそもなんですか？

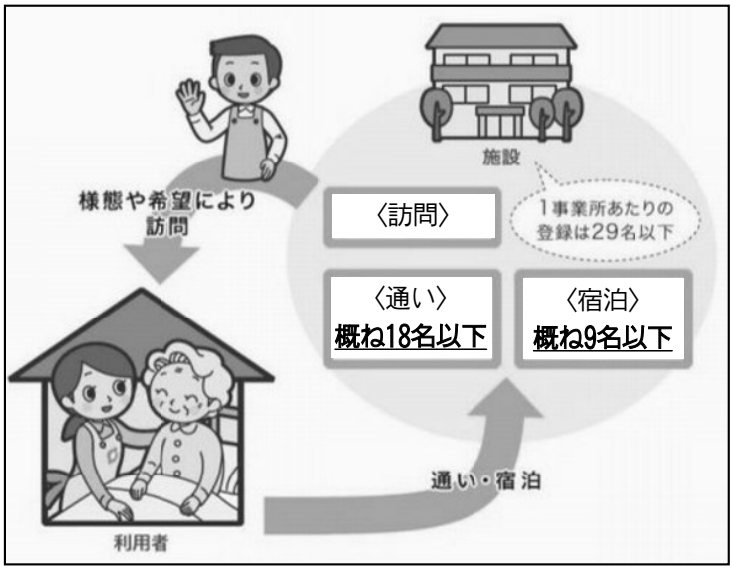
A 一口で言うと「住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けたい。」という願いをささえるサービスです。

小規模多機能型居宅介護とは一つの介護事業所で「通所（デイサービス）」を中心に、「訪問（ホームヘルプ）」や「泊まり（ショートステイ）」を一体的に提供することができます。

利用者の状況に応じて「定額で柔軟にサービスを組み合わせ、一人ひとりのニーズに寄り添ったサービス」を受けられるのが特徴です。

介護度	介護報酬（単位／月）
要支援１	３，４１８
要支援２	６，９０８
要介護１	１０，３６４
要介護２	１５，２３２
要介護３	２２，１５７
要介護４	２４，４５４
要介護５	２６，９６４

1か月定額（上図の基本介護報酬＋各種加算）で、食費・宿泊等の諸経費は別途となります。



小規模多機能型居宅介護サービスの全体イメージ

Q なぜ高齢者生協ぬくもりが「小規模多機能型居宅介護サービス」を始めることにしたの？

A 要介護や認知症になっても、自分の役割を持ち、生きがいや楽しみを感じながら自分らしく生きてほしいと思うからです。

ぬくもりで支援していた一人暮らしの利用者や、認知症などで家族が自宅でみていくことが困難になり、施設探しの支援に至った結果、施設に入った利用者から、「食事が美味しくない」とか「思う様にケアをして貰えない。」等の声を聴くと、改めて最期までぬくもりで支援したかったと思うことが度々ありました。

高齢者にとって食べる楽しみは重要です。お弁当も毎日食べていると飽きてしまいますが、手作りの家庭料理は、できたてを温かいうちに提供でき、みんなとにぎやかに食べることでコミュニケーションも生まれ、健康保持や社会参加にも繋がっていくと考えます。

フロアをオープンキッチンにして、利用者自身も食事作りに参加することで役割を持ち、意欲や楽しみの持てる様な支援がもっとできればと思っていました。

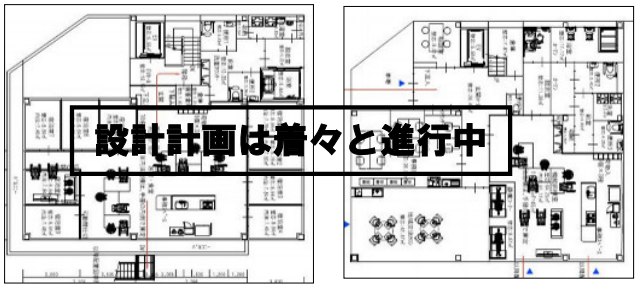
小規模多機能型

・・・人は一人では生きていけない・・・

要介護状態になっても、住み慣れた地域や自宅で過ごしたいと思っても、なかなか思い通りにならない現実があります。利用者の多様なニーズ（おいしい食事が食べたい、畑仕事がしたい、色々な人と交流し楽しみを見つけたい、泊まりを利用したい等の願い）に応えつつ、生活丸ごとの相談ができる拠点となり、高齢者生協の「元気な高齢者をもっと元気に」をスローガンに、地域の元気な高齢者も巻き込んで新たな仕事作りもできればと思っています。

要介護や認知症になっても楽しみや役割を持ち、自分らしく生きたいという当たり前の願いをかなえられる小規模多機能型の施設にしていきたいと、この建設に夢を持っています。

（ぬくもりケアマネジャー　／余語恵美子）



春日井市から公募の選定結果をいただき、地域の住民や町内会役員の皆さんへの説明会などを何度か経て、ご理解を得てきました。

現在、建設に向けての細かい打ち合わせを重ねております。

組合員の皆様のご理解とご協力を今後ともよろしくお願いします。

小規模多機能型居宅介護サービスの名称を募集します！！

仮称は「高齢者生協みんなの家ぬくもり」ですが、皆さまの新しいアイデアをお寄せください！

ご応募につきましては
愛知県高齢者生活協同組合
本部事務局までお願いします。
電話０５２－３３１－４８５３
FAX０５２－３３１－２７３５

理事会だより

２０２０年３月７日（土）理事14人、監事3人出席で、第４回理事会が開催されました。

●1月末の数値

組合員数	2,534名
出資金	61,789千円
供給高	26,533千円
原価	20,501千円
一般管理費	2,372千円
剰余	3,660千円

●介護職員初任者研修：4月11日からほみ会場で開催予定。（コロナウイルスの状況で判断）

●介護職員実務者研修：7月1日開講予定で申請中（あまこだ会場または平和会場）

●小規模多機能型居宅介護事業の進捗状況及び、組合債募集の呼びかけについて。4月から募集し、機関紙「たより」3月号にて詳細告知する。

●コロナウイルスの拡大に伴って、各地域福祉事業所の予防強化とともに、感染者発生の際の対応について指標を協議する。

●年度末一時金は例年通り剰余の60％を支給

●第24回通常総代会は2020年6月28日(日)金山の労働会館にて。
午前中に講演会を設けることを検討中。

２０２０年度「組合債（３年満期）」を募集します

●**利率 年０．５％（単利、自動継続）**
３年満期。中途解約の場合、１年未満は無利息。２年未満は年0.15%、３年未満は0.3%

●**募集目標額　５，５００万円**

●募集目的　春日井市牛山町に建設する「小規模多機能型居宅介護サービス」の立ち上げ資金、及びその運転資金

●募集期間　２０２０年４月１日～２０２０年６月３０日（ただし５，５００万円到達で募集を終了します。）
※２０２０年７月１日より利子発生

●償還日　２０２３年６月３０日

●申込単位　３万円以上（１口１万円単位、３口以上）

●申込み限度額　（お一人様）５００万円
ただし、組合出資金の１０倍以内までとします。

●応募資格　愛知県高齢者生活協同組合の組合員

●お申し込み方法　このページ左下の「組合債」申込書に記載の上、指定の郵便貯金口座または中京銀行口座へお振り込みください。

キリトリ線

組合債（3年満期）申込書

愛知県高齢者生活協同組合　御中

貴生協の組合債権(3年満期)を購入希望しますので、以下の通り申し込みます。

お申込日	2020年　月　日		
ふりがな		性別	
氏名		男　女	
住所	〒		
連絡先	電話	携帯電話	
組合債申込欄	お支払い方法		
	ゆうちょ銀行　または　中京銀行		
購入予定金額	お申込口数	お申込金額	
	口	円	
	※一口1万円、3口以上でお申し込み下さい。		
ご意見欄	※上記お支払方法以外での方法をご希望される方は、その旨をこちらにご記入下さい。		

※事務処理欄	（ご入金確認　2020年　月　日 処理者名

たとえば・・・

出資を１０万円している組合員の場合、１００万円まで応募できます。この場合の利息は、３年満期で１万５千円（１００万円×0.5%×３年）となります。

お申し込みは、左の申込用紙を使用して愛知県高齢者生活協同組合・本部事務局まで直接FAXまたはご郵送いただくか、最寄りの各地域福祉事業所にお尋ねください。追って詳しいご案内を送付させていただきます。

二〇一九年度 協同労働リーダー基礎研修を終えて

事務局／加藤　美紀

二月五日～六日におこなわれた研修先で、多機能型訓練事業所の利用者であり、デイサービス職員として働くKさん（女性）のお話をぜひお伝えしたいと思います。

その前に少し、多機能型訓練事業所及びデイサービスあじさいの説明をいたします。多機能型訓練事業所あじさいでは病院の清掃やリネン（洗濯）、お弁当の配達回収、介護施設での就労など施設内外の活動で選択肢が多いのが特徴です。デイサービスあじさいは、松戸市にある古民家を利用して、一日の利用が一〇名くらいの事業所です。ここの最大の特徴は、就労支援事業所あじさいで訓練中の方や引きこもり経験のある若者、そして一般の介護職の方たちが、それぞれ役割や責任を持って一緒に働いていることです。

今回お話しされたKさんは、統合失調症という精神の病気を一四歳で発症しました。統合失調症の発症原因は不明ですが、有病人口は一〇〇人に一人と、喘息と同じくらいの割合という推計があります。思春期から三〇歳までに発症する方が多いため、今後の生活の基盤を作るという大切な時期に学校や仕事に行けず、デイケアや病院に通い続けることになる場合も多くあります。Kさんもそんな一人で、社会に自分の居場所がないと劣等感を抱えて、悪口を言われているような疑いを感じながら、社会との関りを避けていました。そんな中、デイサービスあじさいを見学して、有償ボランティアとして掃除や食事の後片付けなどのお手伝いを始めました。初めてお給料をもらった時のことをKさんはちゃんと覚えていて「嬉しくて、帰りにコーヒーを買って飲んだ」と話していました。

その後「精神障がい者の介護初任者研修」を取得し、週に一回デイサービスあじさいで高齢者を見守り、高齢者の優しさに見守られる経験を重ねていきました。例えば、利用者とオセロゲームをした時に相手を勝たせてあげようとKさんがわざと負ければ、逆に利用者が「ここに指すといい」と目で教えてくれたり、「こっちはいいから、あれをしないといけないよ。」と仕事の手順をそっと教えてくれるような優しさの重なり合う世界です。そうして「体はくたくたでも、心が温かくなった」と内面が満たされる体験をし、やりがいや自信を得て、やがて病院のリネンの仕事も始めました。そこでは女性の友人もでき、一緒に出掛けたり、電話があって「何か失敗したか」と恐る恐る出てみたら「小豆を炊いたから取りにおいで」というお誘いだったり、かつて味わうことのできなかった女子高生のような気分を感じることができました。今、Kさんは病院の花壇や樹木の管理、他所のサービス付き高齢者住宅にも就労して、自分自身の生活を支えています。

デイサービスあじさい

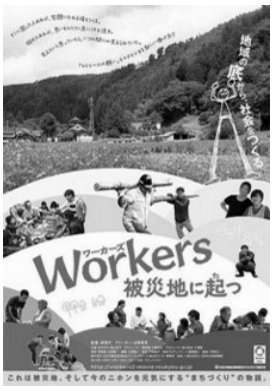
「仕事を通じて居場所を見つけ、社会的責任と役割があるということを実感し、そこから自尊心がちゃんと持てるようになったことが、得たものとして一番大きいと思っています。」とKさんは話を締めくくりました。これまで劣等感で社会との関りを持つことを避けていた人が、今は自尊心と将来の夢を持ち「ずっと一人では寂しいから、結婚もできるといいな。」と思えるまでになったそうです。

私たちの事業所の中にも、共生型デイサービスがすでにあり、社会情勢からも障がいを持つ方と共に働く日は遠くないと思います。その時には今回Kさんが示してくれたこと、役割や責任を持つことから自尊心や働く喜び、将来への希望が生まれるのだということを忘れないで、関わっていかなければならないと感じました。障がいのあるなしに関わらず、みんな生活があり、働くことにおいてもこうであって欲しいという想いがあります。時にはすれ違いが生まれるかもしれません。違いは個性で当たり前のこととして、働く仲間としてお互いを尊重していくことで、共に成長していきたいと感じました。

最後に、このリーダー基礎研修は全三回一セットとなっており、私の参加した二〇一九年度の研修は今回で修了となります。参加や課題準備にご協力いただいた方に感謝するとともに、研修を受けて変わった私を少し表現できればと思います。よい機会をありがとうございました。

2020年1月19日（日）　第1回愛知高齢協ケアワーカー集会を開催しました

学習企画の映画「ワーカーズ被災地に起つ」を全員で鑑賞



3.11を乗り越え、共に生きる社会を目指して居場所づくりをする人々を追ったドキュメンタリー

今年度、愛知高齢協として初めて企画した「愛知高齢協ケアワーカー集会」は、名古屋駅前の貸会議室にて開催されました。当日は各事業所の職員と、労協センター事業団東海からも六名の参加があり、計三九名の集会となりました。

前半は、「ワーカーズ　被災地に起つ」の映画を鑑賞し、東日本大震災という未曽有の大災害に直面した人々が、その後「協同労働」を切り口に自分たちの居場所を作り出し、新しい働き方を模索していったのか、映画を通して知ることが出来ました。

各事業所から代表者がテーマを持ち寄りパネルディスカッションにチャレンジ

後半には、事業所代表者らによる事例発表に各自がテーマを持ち寄ってパネルディスカッション形式で行われ、その中では具体的に行ったケアの実践や事象を、それぞれの気づきも交えて語られました。

コーディネーターの坂林さん（高齢協連合会副会長理事）の「すごく良い事例に思える話でも、そこに至るまでに行われたケアとは何だったかに焦点を当てて分析し、生きる意欲をどう高めて引き出したかまでを、パネルディスカッションで発表できると、より良いだろう。」とのコメントが印象に残りました。今後の継続に是非活かしたい言葉です。

参加者からは「他の事業所で普段行われている活動を初めて知り、自分も励みになった。」「事例発表は『なるほど』があり良かった。『困った』に向き合い創意工夫しているのが伝わった。」など他事業所の取り組みを自分の事業所に置き換えてみることで新鮮に感じたという感想のほか「今後、制度外でできることを各事業所も考えていくべき。」「利益を生む仕事内容にすることが必要」や「経営的なことはあやふやなので、詳しい人に説明してほしい。」などの意見もあり、いま置かれている介護、障害支援事業の現状を意識した意見も多く見受けることが出来ました。これらを次回につなげたいと思います。

かんたん料理

簡単バーニャカウダソース

オリーブ油　大さじ2、おろしにんにく　10ｇ、アンチョビ（缶詰）２枚、マヨネーズ（豆乳や生クリームでも）大さじ2、ブラックペッパー、塩 お好みで少々

1.耐熱カップに、オリーブ油・おろしにんにく、アンチョビを入れ、電子レンジ（500～600W）で３０秒ほど加熱する。油跳ねに気を付ける。

2. 1にマヨネーズを加え、すり鉢等でつぶしながらよく混ぜて冷ます。
ブラックペッパーを振り、塩で味を調える。

3.スティック野菜や蒸したりゆでた温野菜、シーフードなどにつけていただく。
マヨネーズのほかに生クリーム、牛乳や豆乳でアレンジもできる。

「救いの手、ヘルパーさん」

春日井市組合員　梶田真合さん

夫七五才、私は七〇才、老夫婦二人暮らしです。そして私はパーキンソン病を患って二〇年。ここ数年は特に悪く、六月から三カ月間入院していました。その時腰痛持ちの夫は一人で家の事、病院の事など頑張ってくれました。退院後のことをケアマネージャーと相談し、食事のことはヘルパーさんを頼むことにしました。

退院の翌日から来てもらいました。家に他人が入ることを渋る人もあるようですが、私たちは何とも思わないのでスムースに事は運びました。

毎日四時半になると、「こんにちは」とやってきます。一日中ほとんど一人でいる私にとっては唯一の話し相手です。今日の夕食は？と冷蔵庫の中のもので相談したり決めておいたものを調理してもらっています。時には「〇〇のスーパーが安い」とか「△△のものがいいよ」などの情報交換もします。世間話をしながら調理してもらうのは楽しみです。

それにしてもヘルパーさんに感心する事は、初めて訪問した家のキッチンを以前から使っているようにサッサと使われることです。どこに何があるのかすぐに解ってしまうようです。　我が家の好みは味が濃いので、醤油を一滴余分にたらし、私たちの口に合わせてくださることです。感謝です。ヘルパーさんをお願いするのをためらっている人、ぜひあまえてみてはいかがですか。

たより年始号の表紙も飾ってくれた梶田さんは、絵手紙がとてもお得意です。いきいきとした筆遣いとラ・フランスの質感を高く評価されて、中日新聞にも掲載された作品。

２０２０年１月２２日中日新聞夕刊より

今月のうた

鐘の鳴る丘（とんがり帽子）

作詞：菊田一夫、作曲：古関裕而

1
緑の丘の赤い屋根
とんがり帽子の時計台
鐘が鳴ります　キンコンカン
メーメーこやぎもないてます
風がそよそよ丘の上
黄色いお窓はおいらの家よ

2
緑の丘の麦畑
おいらが一人でいる時に
鐘が鳴ります　キンコンカン
鳴る鳴る鐘はちちははの
元気でいろよという声よ
口笛吹いておいらは元気

3
とんがり帽子の時計台
夜になったら星が出る
鐘が鳴ります　キンコンカン
おいらはかえる屋根の下
父さん母さんいないけど
丘のあの窓おいらの家よ

4
おやすみなさい　空の星
おやすみなさい　仲間たち
鐘が鳴ります　キンコンカン
昨日にまさる今日よりも
あしたはもっとしあわせに
みんな仲よくおやすみなさい

あるおじいの沖縄戦⑥

辺野古基地の有用性に対する疑問は、長い間様々な角度から論じられてきました。

しかし、議論の真ん中で「日本は戦争はしない」という根本的な論点を忘れがちです。常に日米地位協定と、日本が外敵から攻撃される仮想の「防衛」の名のもとでしか展開されていません。日本が外から攻撃を受けるまでの結果に至る「入口」は外交交渉と国際協調で防ぐしかないという結論は、75年前に出されたはずではなかったでしょうか。

「米国」との不随意な二人三脚という立場を永遠に選択するのだとしたら、日本の独立性はどこにあるのでしょう。今また鹿児島県西之表市の馬毛（まげ）島を、新たな空母離着陸訓練基地に想定して工事が進められようとしています。これも米国から、より利便性ある土地の提供を要請された結果です。

新たな軍拡と米国追従の先にいったい何があるか、後世のためにも考え続けていきたいと思います。

〈最終回〉

種子島の西方12kmにある馬毛島

いかに生きるか、いかにして死ぬか

琉球国は東南アジア諸国との交易で富み栄え、武器を持たない平和な国であった。その琉球国を明治日本国は軍で制圧し、無理やり琉球処分したのである。以来、日本国の南に縄のように連なる島、沖縄のウチナンチュとして差別蔑視されてきたのである。

青春の日の感激は尊い。

それはその人の一生に鳴り響き、

その人生の方向を決定する――――ゲーテ

私は六〇年安保、七〇年安保と、青春時代をイデオロギー闘争の真っただ中で生きてきたが、二人の友を亡くした。

米軍基地を残したままの返還合意を歓喜するウチナンチュに失望し、私は一切の政治闘争から身を引いた。人並みに結婚し、家庭を持とうと思った。そんな私を仲間たちは「裏切り者」と罵った。居場所がなくなった。私は沖縄を捨てた。

四〇数年ぶりに戻ってきた沖縄は、人も景色もすっかり変わってしまっていた。復帰闘争を共に闘った仲間たちもほとんど死んでしまったか、どこかへいなくなっていた。

私が沖縄に帰ってきたのは、辺野古基地阻止闘争に参加するためである。翁長知事となり、ひょっとしたら「ムヌ喰いシドゥ我ガ御主」（物をくれるのがご主人様）を脱することが出来るかもしれないと思ったからである。

しかし、沖縄には復帰した四〇数年前よりも厳しい現実が待っていた。米軍だけでなく自衛隊基地までもが各地に設置されていて、琉球全体が軍事基地化され、再び日本国の捨て石にされようとしていたのである。

日本は、民主主義国家ではない。ファシズム国家である。安倍政権の野望はかつての大日本帝国である。憲法九条を無視して安保法制を強行採決し、日本は法治国家だとうそぶいて、沖縄の民意を無視したまま辺野古基地を強行しているのである。

いかに生きるか、いかにして死ぬか。今後、辺野古基地がどう展ずるにしても私は阻止闘争に命を懸ける。一度は沖縄を捨てたけれど、今の私はもうどこにも行くところがない。

（城間　恒人）

※手記「あるおじいの沖縄戦」の連載はこれで終了いたします。

作中、度々出てくる「差別」という言葉。今、沖縄に多くの米軍基地が米国の望むままに集中したのは、本土国民の、地域への無知と差別が米国に利用されたのだという見方もあります。人々の無意識の差別が政治的弱点にもなってしまう象徴です。

このような、人間心理の暗部が、国策に利用された結果、過去にも多くの悲劇が生まれてきたことを私たちはいま一度、思い出すべきです。

負の世界遺産アウシュビッツ